

佳作

人のやさしさにふれたとき

福島県 中島村立滑津小学校一年 栗田 愛来

わたしは、しょうがっこうに入がくするのが、とてもたのしみなきもちと、しんぱいやドキドキなきもちでいっぱいでした。「はやく入がくしきにならないかな。でももうすこし、ようちえんせいでいたかったな」とおもいました。

入がくしきの日は、わたしがえらんでかっでもらったピカピカのランドセルをせおって、がっこうへいきました。がっこうは、ひろくてたくさんのきょうしつがあり、大きいおにいさん、おねえさん、せんせいもたくさんいました。「あしたから、だいじょうぶかな?」としんぱいになりました。大きいおにいさん、おねえさん、せんせいやおとうさん、おかあさんのいるしきじょうに入るとき、六年せいのおねえさんが、てをつないでくれました。そのとき「ドキドキしてる?」

はずかしがりやなのでそんなおねえさんたちにあこがれます。わたしが、六年せいになったとき、わたしとおなじふあんやドキドキしたきもち、たのしみにして入がくしてきた一年せいや、なにかでこまっている人がいたら、すぐにたすけてあげられるおねえさんに、なりたいたいとおもいました。

ときかれたわたしは、

「はい。」

とこたえました。まだ、なまえもわからないおねえさんだけど、わたしのてをギュツとしてくれてうれしかったです。

かえりは、きょうかしよがおもくてまたふあんになりました。あしたから、おべんきょうはじまるんだ!!と。

あさがきて、とうこうすると六年せい、

「じぶんのきょうしつわかる?」

ときいてくれました。

「わかるよ。」

といったけど、いっしょにきょうしつまでつれていってくれました。

それから、あさマラソンでころんでしまったわたしを立てずにいたところ、うしろからきた六年せいのおねえさんが、こえをかけてたすけてくれ、ほけんしつまでつれていってくれました。やさしいおねえさんたちのいるがっこうが、わたしは大すきです。こまっているとき、しんぱいなかおをしているとき、すぐにきづいてきてくれます。いつもニコニコやさしいえがおで、おはなししてくれます。わたしは、